



株式会社 協豊製作所

環境報告書

2025

はじめに

地球の環境保全が叫ばれ、CO2による地球の温暖化、オゾン層の破壊、エネルギー資源の枯渇など環境問題は様々な形で我々の身近に危機感をもたらしています。日本でもダイオキシン・化学物質・土壌汚染・廃棄物問題に対応する新たな法規制の整備や、循環型社会の構築に向けたリサイクル活動等が相次いで進められています。

弊社も環境問題は取り組むべき重要な課題と認識し、環境保全を念頭において活動しています。1997年に制定した「環境取組プラン」による廃棄物低減・省エネ活動から、1999年1月には弊社の全サイトで環境管理の国際規格ISO14001の認証を取得しました。現在も、環境マネジメントシステムの適正な運用・管理をスパイラルアップを図りながら継続的に推進しています。

また弊社はトヨタ自動車(株)の連結環境マネジメントグループのメンバーとして「トヨタ地球環境憲章」の共有及び地域社会への環境負荷の低減に努めています。

今後も環境保全活動を経営の最重要課題として位置づけ取り組んでいきます。この報告書により弊社の環境保全への考え方、活動状況をご理解いただき、皆様の率直なご意見がいただければ幸いに存じます。

代表取締役社長 大地 洋三



目次

環境方針	1
環境マネジメント体制	2
IS14001認証取得	3
環境マネジメント活動の取り組み	4
環境保全と地域活動	5
環境負荷低減の取り組み	6-7
環境データの推移	8-9

環境方針

当社は持続可能な社会の実現に向け、事業活動において環境への影響を最小限に抑えることを基本理念としています。



(株)協豊製作所 環境方針

当社の経営理念である「自然環境に配慮するとともに法とその精神を遵守し、地域に根ざした企業活動を通じて社会の発展に寄与する」を受けて、環境方針を制定する。

2020年8月17日

環境統括者

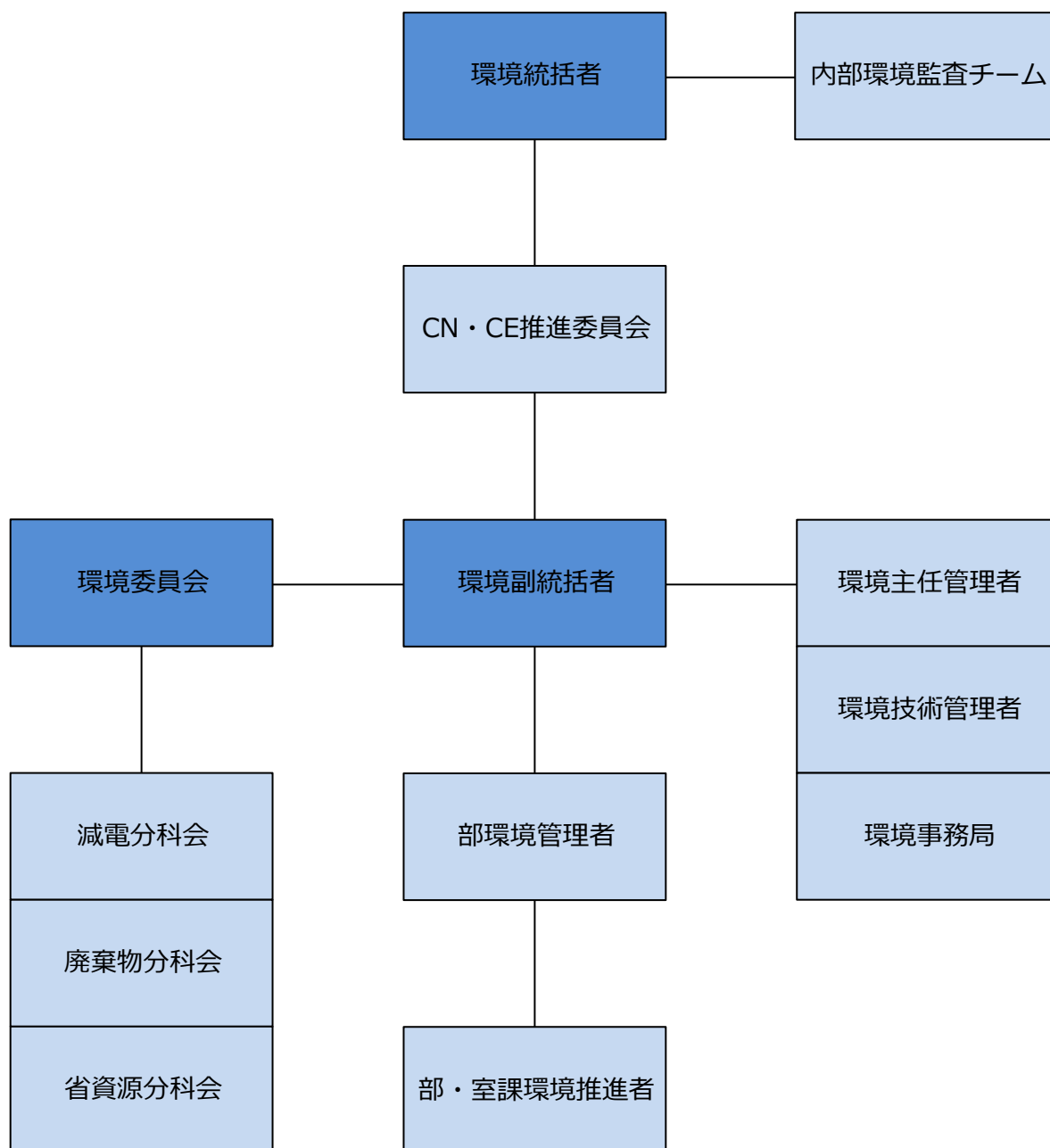
取締役執行役員

福岡 秀夫

1. 地球や地域に求められる環境への目標を定め、その達成に向け、部品及び部品の生産、設備の設計・製作など全ての事業活動において、環境への影響を常に考え、行動するマネジメントを実行するとともに、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行ないます。
2. 国・地方自治体の定めた環境法規に加え、当社と子会社が同意した要求事項を遵守するとともに、仕入先の環境における課題を共有し、環境保全に向けた支援を促進します。
3. 環境保全の基本は発生源対策にあるとの認識の下、資源やエネルギーの使用量を削減するなど、環境影響要因の低減を積極的、継続的に取り組みます。
4. 一人ひとりが自らの仕事における環境への影響を認識し、環境保護への自覚と責任を持った自主的な活動を行ないます。
5. 地域とのコミュニケーションを大切にし、地域の環境保護活動及び自然共生活動に積極的に参画します。

環境マネジメント体制

当社では、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステム（EMS）を構築・運用しています。
以下に示すマネジメント体制を設け、環境パフォーマンスの向上に努めています。



ISO14001認証取得

当社は、国際規格である「ISO14001：環境マネジメントシステム」の認証を取得しています。
以下に、認証取得範囲および環境マネジメントシステムの適用範囲を示します。

1.環境マネジメントシステム適用範囲・認証取得範囲

サイト	住所	適用範囲	認証取得範囲
本社・本社工場	愛知県豊田市トヨタ町6番地	○	○
小原工場	愛知県豊田市永太郎町畷添338番地	○	○
音羽工場	愛知県豊川市長沢町東千束71番地	○	○
緑工場	愛知県豊田市緑ヶ丘二丁目15番地	○	○
田原営業所	愛知県田原市緑が浜四号1番20	○	○
衣浦営業所	愛知県碧南市玉津浦町10番地1	○	※
協豊ファクトリーサービス(株) 本社工場	愛知県みよし市打越町新池浦53番7	○	○
協豊ファクトリーサービス(株) 安城工場	愛知県安城市橋目町茶臼246	○	○
対象活動			
自動車用部品の生産及び自動車生産用機械・設備の設計と生産、廃棄物収集運搬 認定範囲分類…18:機械、装置、22:その他輸送装置、39:その他社会的・個人的サービス			
対象人員		対象外となる業務・活動	
正社員、パート、派遣社員		社内給食業、守衛、請負業 等	

※トヨタ自動車(株)衣浦工場内にあり、トヨタ自動車(株)として認証を取得しています。

当社の認証取得範囲外ですが、環境マネジメントシステムの適用範囲に含み、共に活動中です。

2.認証登録証

1999年に認証を取得し、以降、継続的な更新と運用を通じて環境保全に取り組んでいます。



環境マネジメント活動の取り組み

環境内部監査の実施により、運用状況を評価し、改善を図っています。

さらに、環境保全を理解して行動できるよう、教育や訓練を実施しています。

また、異常処置訓練や、環境負荷の高い設備の管理により、事故や漏洩の防止に努めています。

1.環境内部監査

環境マネジメントシステムの有効性を確認する内部監査を毎年実施しています。

監査では、法令や遵守状況、環境目標の達成状況、業務プロセスの改善点などをチェックし、必要に応じて是正・予防措置を講じます。

これにより、環境パフォーマンスの向上を図っています。



2.社内教育

環境意識の向上と基本的な知識の習得を目指し、社内教育を実施しています。

新入社員教育と新任職制教育があり、前者では環境知識の基礎を、後者では一般知識とISO14001の基礎を学びます。

いずれもハイレベルな専門教育ではありませんが、無理なく環境への配慮を行えるよう支援しています。



3.異常処置訓練

環境事故や異常事態に備え、異常処置訓練を実施しています。

油の漏えいなど、想定されるリスクに基づいたシナリオを用い、実践的な訓練を行うことで、対応のスピードと精度を高めています。

また、訓練後は振り返りを行い、手順や対応体制の見直しを行うことで、さらなるレベル向上を目指しています。



4.環境重要設備の管理

環境への影響が大きい設備は「環境重要設備」として特定し、重点的に管理を行っています。

これらの設備については、定期点検やメンテナンスを実施し、故障などによる環境リスクを未然に防いでいます。設備の安定稼働を通じて、地域社会や自然環境への配慮を継続しています。



環境保全と地域活動

地域に根差した企業として、自治体との連携や、地域清掃・緑化活動への参加を通じて、住みよいまちづくりに貢献しています。

1.自治体との連携

「環境の保全を推進する協定」を豊田市と締結しています。
この協定は、企業と自治体が協働して環境保全に取り組むことを目的としており、当社の活動の基本的な枠組みのひとつとなっています。

協定の内容に基づき、当社では排水の適切な管理に加え、緊急時に備えた社内体制の整備、地域との情報共有など、様々な面から環境リスクの低減に努めています。

また、行政との意見交換や情報共有を通じて、地域との信頼関係を築き、持続可能な環境づくりを進めています。



2.地域活動

事業所が立地する地域社会との共生を重視し、環境美化などの活動に取り組んでいます。

工場周辺の清掃活動に加え、地元こども園との交流など、地域の一員として役割を果たすことを大切にしています。

これらの活動を通じて、地域との信頼関係を育み、環境と人にやさしい企業を目指してまいります。



3.緑化活動

環境整備の一環として、敷地内で緑化に取り組んでいます。

毎年の植樹を継続しており、少しずつですが、敷地内の緑の充実に努めています。

これらの取り組みにより、過去には「全国緑の工場大賞」を受賞した実績もあります。

今後も地域に調和した環境づくりを進めてまいります。



環境負荷低減の取り組み

当社では、CO2排出量の削減をはじめ、環境負荷物質の使用低減、廃棄物の再資源化などに取り組んでいます。

1.環境負荷物質低減活動

製造に関わる物品や資材の調達にて、環境や人体への影響を最小限に最小限に抑えることを目的とし、環境負荷物質の管理をしています。

社内の管理システムにより、資材や化学品などの選定時に有害性を確認し、必要に応じて代替品への切り替えや購入の見送りを行う体制を整えています。

また、仕入先や取引先に当社の環境負荷物質管理規格を展開し、サプライチェーン全体での環境負荷低減を進めています。

今後も環境に配慮した調達を通じて、環境影響の低減に努めてまいります。



2.廃棄物低減活動

事業活動で発生する廃棄物の削減と再資源化を重要課題と捉え、様々な取り組みを進めています。

工場内では廃棄物を分別し、再資源化できるものはリサイクルへ回す体制を整えています。

また、切削油や洗浄液などについても、使用方法や管理方法を見直すことで長寿命化を図り、廃液の発生量を抑制しています。

さらに、作業現場で使用する軍手などの手袋類については、洗浄・再利用を通じて廃棄を減らす工夫を行っており、使い捨ての削減にもつながっています。

今後も改善を重ね、環境負荷の少ない工場運営を目指してまいります。



環境負荷低減の取り組み

3.カーボンニュートラルへの取り組み

温室効果ガス排出量の削減とエネルギー効率の向上を目指し、カーボンニュートラルに向けた取り組みを進めています。

従業員からの改善提案制度を活用し、小さなエネルギー改善の積み重ねに取り組むとともに、工場内ではエア供給のエリア分けによる使用量の最適化や、照明のLED化、遮熱対策などにより電力使用の効率化を図っています。

また、物流面では積載率の向上や走行ルートの見直しを通じて燃料消費の抑制に努めており、再生可能エネルギーとして工場屋根に設置した太陽光発電の活用も進めています。

今後も、設備面・運用面の両側からCO₂削減を図りながら、持続可能な製造活動の実現に向けた取り組みを続けてまいります。



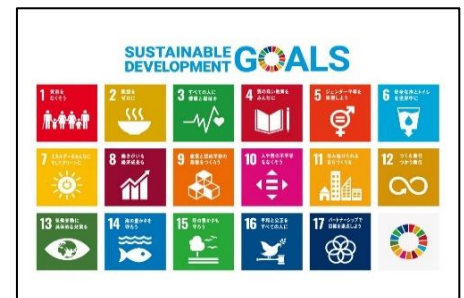
4.SDGsへの取り組み

持続可能な社会の実現に向けた取り組みを少しずつ進めています。

まだ十分とは言えない状況ですが、まずはできることから取り組みを始めています。

過去には、豊田市が実施する「SDGs推進企業認証制度」にて、ブロンズ認証を取得しました。

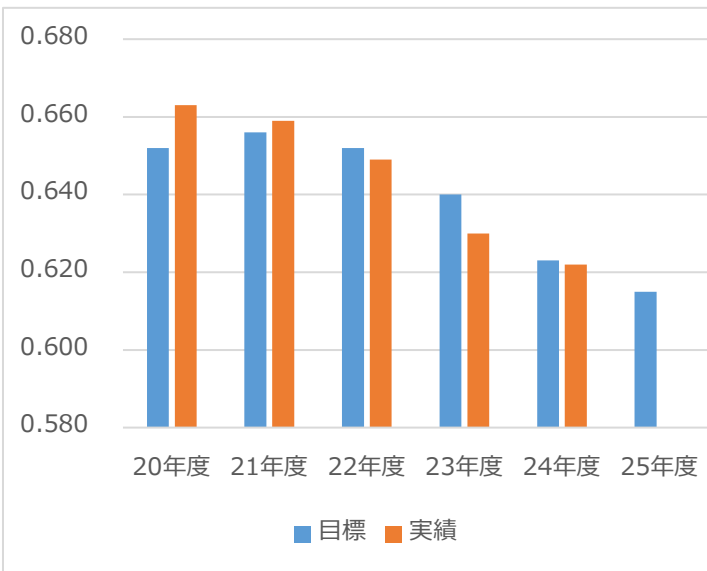
認証更新やレベルアップに向けて取り組みを広げ、持続可能な社会に向けて努力してまいります。



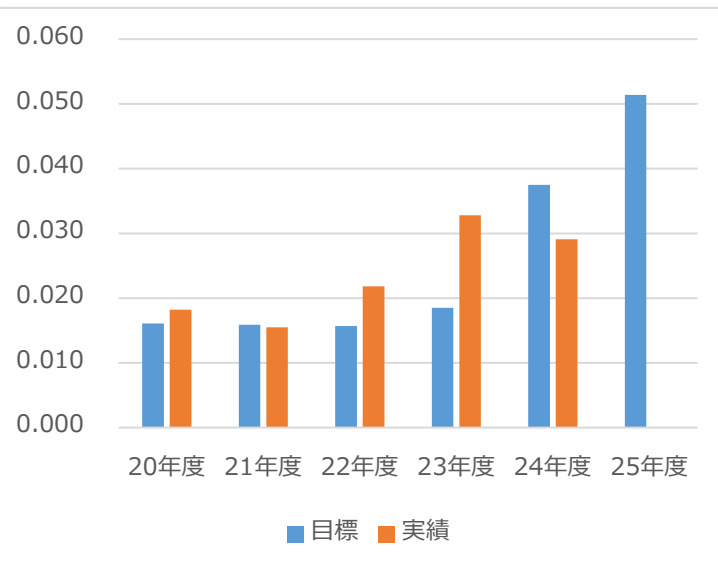
環境データの推移

CO2排出量、廃棄物発生量、水質データなどの環境指標についての年度ごとの実績です。
全項目で法令基準を遵守しており、安定した環境管理体制を維持しています。

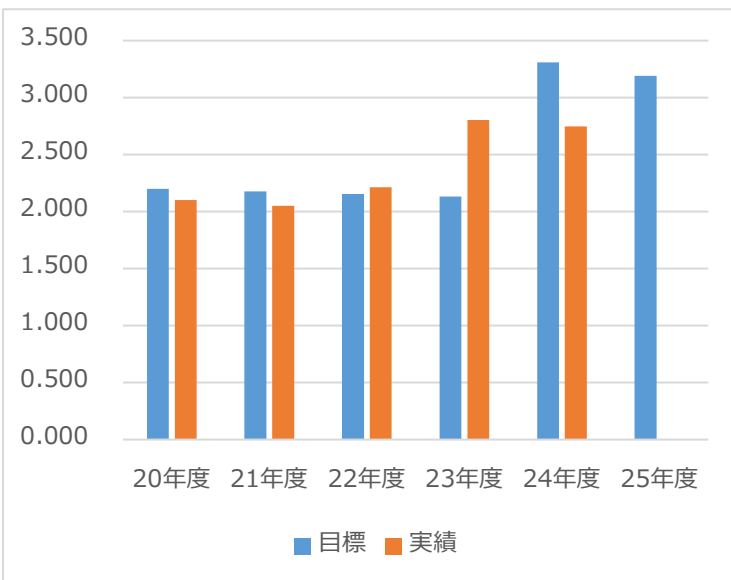
1.生産活動におけるCO2排出量原単位



2.廃棄物発生量原単位

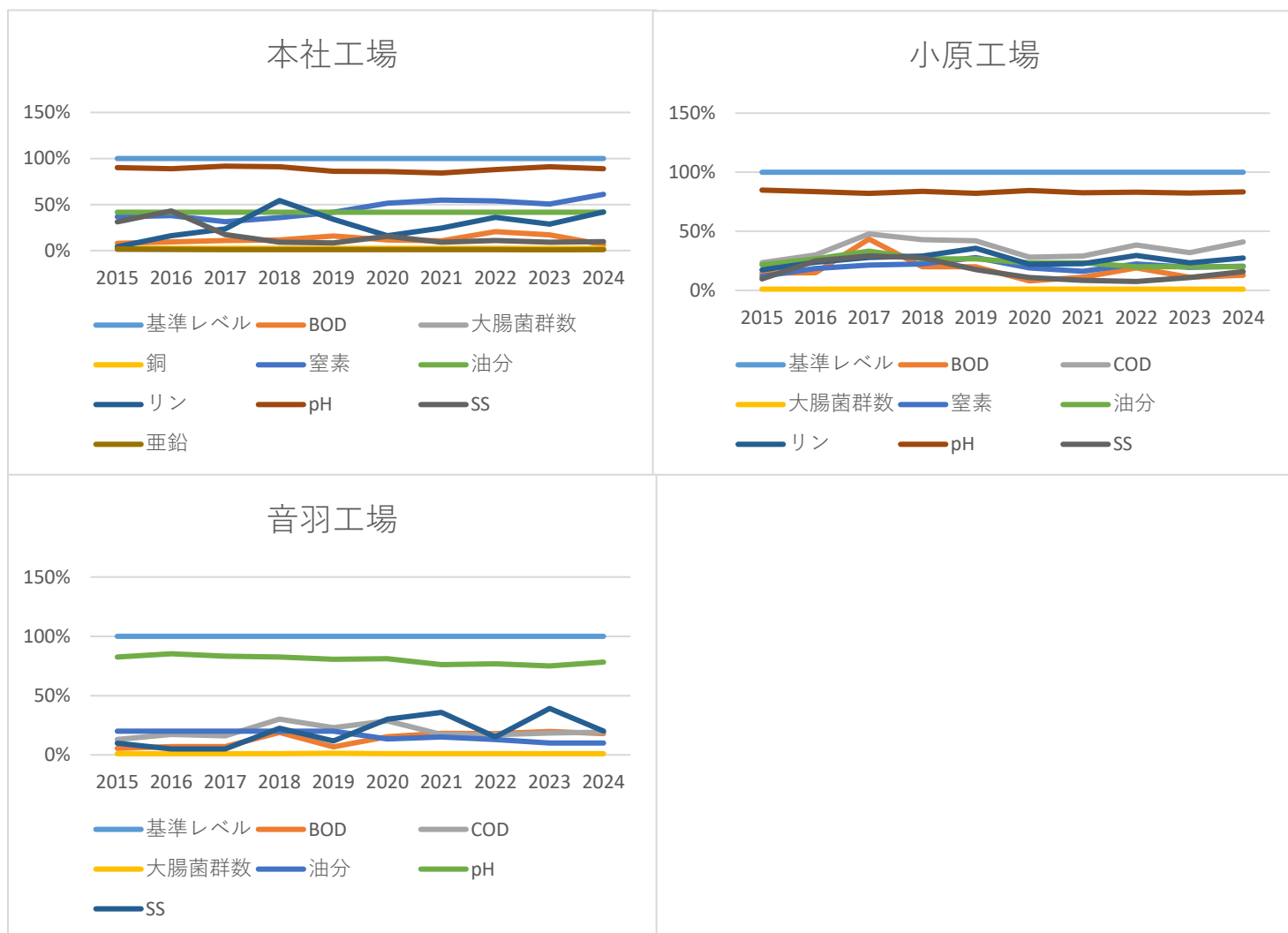


3.排出物発生量原単位



環境データの推移

5.排水水質



排水自主基準値

	本社工場	小原工場	音羽工場
測定項目	自主基準値	自主基準値	自主基準値
pH	6.08～8.32	5.8～8.6	5.8～8.6
BOD	≦16mg/ℓ	≦20mg/ℓ	≦20mg/ℓ
COD	—	≦20mg/ℓ	≦20mg/ℓ
SS	≦12mg/ℓ	≦20mg/ℓ	≦20mg/ℓ
油分	≦2.4mg/ℓ	≦5mg/ℓ	≦5mg/ℓ
窒素	≦48mg/ℓ	≦48mg/ℓ	—
リン	≦4.8mg/ℓ	≦4.8mg/ℓ	—
銅	≦0.4mg/ℓ	—	—
亜鉛	≦1.6mg/ℓ	—	—
大腸菌群数	3000個/cm ³	3000個/cm ³	3000個/cm ³

環境報告書 2025



株式会社 協豊製作所

HP / <https://www.kyoho-ss.co.jp/>

発行部署 / 安全健康環境部

発行日 / 2025年10月